



リコリス・ジャクソニアナ

一人の健康から地球の未来まで

AKATSUKA

グリーン通信

Green Communication

vol.173 2013.8月号

魅力的な 夏植え球根

秋植え球根が本格的に出回るのは9月に入ってからですが、その前に出回ってくるのが夏植え球根のグループです。夏のうちに植え付けて秋に開花する球根類で、秋植え球根と違って、個性的な特徴があつて面白いものが多く、とても魅力的な球根たちです。

多彩なリコリス

中でも注目されているのは、やはり品種が多いリコリスとネリネの2種類でしょう。リコリスはいわゆるヒガンバナの仲間、日本や中国に色々な種類が自生していますが、時期になると何もない地面から突然花茎を立ち上げ、赤や黄、ピンクの派手な花を咲かせるその姿から、欧米ではマジックリリーと呼ばれて大変人気のある球根となっています。ヒガンバナという、真っ赤な花のイメージが強いのですが、白や黄色、ピンクと多彩な色彩があり、交配された園芸品種も色々と登場しています。

特にお勧めはブルーがかつたピンクのジャクソニアナで、8月下旬頃に咲く園芸品種です。非常によく花を付け、独特の美しい色合いはとても魅力的です。もうひとつのおすすめ品種は濃い



リコリス・オーレア

黄色のオーレアです。台湾原産の種類で、この仲間では遅咲きの10月開花ですが、濃い黄色の大輪の花は華やかで切り花としても出回っているようです。リコリスはとても丈夫な球根ですが、掘上げや植え替えは嫌う性質があり、そのため植え付け1年目にはあまり良い花を咲かせてくれません。しかし、早目に植え付けて、開花シーズンまでに根を張らすことができれば、見違えるような素敵な花を咲かせてくれます。とにかく球根を入手したら早く植え付けましょう。数年間植え放しにするため、半日以上日の当たる所に露地植えするのがおすすめです。

花持ちの良いネリネ

リコリスが日本や中国原産なのに対し、ネリネは南アフリカが原産の球根です。見た目が似ていることもあり混同されやすいのですが、開花時期が

10〜11月と遅く、非常に花持ちが良いのが特長です。また花弁の表面がまるでダイヤの砂粒をまぶしたようにキラキラするため、ダイヤモンドリリーの愛称でも親しまれています。やや耐寒性が弱く霜を避ける必要があるため鉢植えにしますが、9〜12cmのダオン鉢に1球植えがおすすめです。用土は赤玉土と鹿沼土の混合を使い球根を半分埋める程度の浅植えとし、肥料はあまり与えず数年間は植え替えせずに育てます。球根は早めに植え付けますが、葉や蕾が伸び出すまでは水は控えめにし、生長に合わせて水を増やしていくのがポイントですが、基本的に乾燥気味を好むので、やり過ぎには注意します。花持ちが異常に長く、そのまま咲かせておくと球根が消耗してしまうので、咲き始めたら切花にして楽しむのが良いでしょう。切花にしても2週間近くは咲き続けてくれます。

文：グリーンアドバイザー 倉林雪天



ネリネ